



No 93

新館紹介

金光町立図書館



金光 町は県南西部に位置し、自然に恵まれた町で、水島工業地帯のベツドタウンとして発展しており、金光教発祥の地としても有名で、人口は一万二千五百十三人（平成十六年三月末現在）の町です。平成十五年十一月一日にオープンした金光町立図書館は、金光町のインターネットジェンスの集積として、また、

公民館と並ぶ生涯学習の拠点として、さらには、二十一世紀を担う子どもたちの健全な知力育成の場として期待されています。運営スタッフは館長以下六名ですが、全員が全くの素人なので、毎日が新鮮で楽しみながら運営しています。

一階は成人及び学生を対象とした静かな読書空間とし、パソコン教室はIT講習会や会議室に利用しています。二階は、児童・子ども向けのコーナーとしてDVDやインターネットなどが楽しめるコーナー、さらに幼児用の絵本コーナーも設けており、多少のざわめきの中にも親しみを持った利用を心がけています。

図書館はオープンより平成十六年二月末までの四カ月間で、延べ五千人、一ヶ月平均千二百五十人が来館され、延べ一万五千冊、一ヶ月平均三千七百五十冊の資料の貸出がありました。図書の蔵書数は現在約二万冊で、AV資料が約四百五十点あり、十六年度中には約五千冊を増冊する予定です。現在、児童書・絵本・紙

芝居あわせて約一万冊の蔵書がありますが、今後も児童向け図書の整備を重点的に進めていきたいと思っています。

平日の午前中は、比較的用户数も落ち着いており、多くの方が館内でゆっくりと過ごされています。なかでも絵本コーナーには、靴を脱いでくつろげるスペースがあり、乳幼児を連れたいお母さん方から、子どもと安心して本に親しめると大変喜んでいただいています。

午後になると、図書館に来るのを楽しみに園児や児童たちが、友達と一緒に来てくれています。「こんな本ある?」「あの本返ってきた?」「この本借りる!」といった子どもたちの元気な声に、スタッフもうれしくなって自然と笑顔になります。土日は、家族連れや子どもたちの利用がさらに多くなります。特にD



VDあるインターネットなどの館内利用が増え、四台の視聴覚機器と二台のパソコンは常に稼働している、といった状況



況です。十六年度四月からは新たに、未就園児を対象とした『おはなしおもちゃばこ』（読み聞かせ）を定期的に行

う予定です。

子どもたちの本離れが懸念されている昨今ですが、幸い金光町には以前より歴史ある金光図書館があり、町内に図書館が二館あるという恵まれた環境にあります。この環境を大いに生かして、子どもたちと本とのつながりも考えていきたいと思っています。

開館時間・休館日

開館時間 火曜日・土曜日

午前十時から午後六時

日曜日

午前十時から午後五時

休館日 月曜日(第3日曜日)の次の月曜日は開館)

第3日曜日の前日の土曜日・第3日曜日・祝日・月末図書整理日(月末が休館日の場合はその前日)・年末年始

休館日(第3日曜日)の次の月曜日は開館)

岡山県総合文化センター閉館に当たって

岡山県総合文化センター

館長 広江寿彦



岡山県総合文化センターは、本年三月末を持って閉館することに

なりました。

閉館後、図書館部門については、四月一日「岡山県立図書館」へ移行し、文化部門については、現建物を改修し、平成十七年度中に「岡山県県民文化交流センター（仮称）」として発足する予定です。

昭和六十二年度、県立美術館開館を契機に、岡山県教育委員会において、県総合文化センター図書館部門を県立図書館として独立させるなど総合文化センターの再編整備の方向が示されましたが、ここに完結することとなりました。私自身、当時、県教育委員会社会教育課において、この再編整備に携わり、このたび、さらに、閉館の任に当たることになったことに、感慨無量なものがあ

当館は、昭和三十二年、県民のより豊かな文化活動を支援するため、当時の県立図書館、県視聴覚ライブラリー、県日米文化センターを母体にして誕生した総合的な教育・文化施設でした。建物は、岡山国体の昭和三十七年に完成しました。以来、関係者のご協力のもとに、総合的機能を発揮し、新機軸の活動の展開を図るとともに、岡山県教育・文化の向上に大きな軌跡を残したところであります。



しかし、社会の高度化、県民ニーズの多様化により、当館の機能は、独立・専門化の必要に迫られました。昭和四十六年県立博物館、同六十二年県立美術館、平成七年県国際交流センター、同九年県生涯学習センターがオープンしたところですが、

それに併せて、総合文化センターの機能・組織は縮小してまいりました。図書館部門については、独立化は遅れましたが、自動車文庫から市町村図書館支援へのシフト（市町村図書館への巡回協力車の運行、普及課（分室）の設置、公立図書館ネットワーク推進協議会の設置）、電子図書館構想の推進、専門的資料の充実など県立図書館としての役割を着実に高めてきました。このたび、新県立図書館にバトンタッチすることに

たる「岡山県総合文化センター」の幕を閉じることになりました。

新しい岡山県立図書館は、四月一日に誕生しますが、約半年間は準備のためやむをえず休館します。九月二十五日に、岡山市丸の内（旧丸之内中学校跡地）にオープンします。地下一階、地上四階という低層ながらも、面積一万八千平方メートルと堂々とした建物です。主題部門別制を取り入れ、社会の情報化にも十分対応するなど最先端の図書館です。県庁と岡山城との間に位置することあ

わせ、岡山の顔としての役割を果たすものと思います。

現総合文化センターは、耐震補強を施すとともに、図書館部門が使っていたところを展示室や文化情報コーナーに、地下は音楽・演劇等の練習室にするなど大規模改修を行い、平成十七年度中に装いも新たに「県民文化交流センター（仮称）」として、オープンする予定です。

長年にわたり、ご支援をいただきました岡山県図書館協会各位に、厚くお礼を申し上げますとともに、新しい県立図書館に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。閉館のご挨拶といたします。

なり、ここに、四十六年九ヶ月に

岡山県立図書館の開館は、今年の九月二十五日(土)と決まりました。新しい県立図書館が、どのようなサービスを計画しているのか、市町村立図書館との協力活動にしばって整理してみたいと思います。

一 協力貸出

県民の大半は日常的に身近にある市町村立図書館を利用します。県民の図書館利用の窓口は市町村立図書館にあるといえるでしょう。

県立図書館は市町村立図書館の求めに応じ積極的に資料の協力貸出で支援します。市町村立図書館とネットワークを組み、全体として県民の要求に応じていくという考え方で、新しく児童資料やAV資料、さらに雑誌の提供も行います。

さて、図書館ネットワークが効果を発揮するにはいくつかの条件が必要になります。

(一) 図書館横断検索システム

まず、県民が必要とする資料がこの図書館にあるか検索・予約できるシステムが必要です。県立図書館では、岡山県図書館横断検索システムを提供していきます。これまでは公立図書館を中心にしたものでしたが、今後は大学図書館を含む県内図書館の総合目録の方向へ発展させていきたいと考えています。

(二) 図書館資料搬送システム

県立図書館では、七十八市町村の図書館や公民館図書室に向けて宅配便(週一回)を使った予約資料の搬送事業を本格実施します。県立図書館から市町村立図書館までは県立図書館が、市町村立図書館から県民へは市町村立図書館が担当するということ仕組みです。

県独自で行うインターネット予約貸出もこの搬送システムを活用して行います。

二 協力レファレンス
県立図書館は市町村立図書館の求めに応じレファレンスを調査し

回答していきます。

(一) 主題部門別制の実施

県立図書館では、参考資料、人文科学資料、児童資料、社会科学資料、自然科学・産業資料、郷土資料の六部門からなる主題部門別閲覧制を採用しています。各部門には専用のレファレンスカウンターを設置し、専

岡山県立図書館の図書館協力活動

岡山県総合文化センター

総括司書 菱川 広光



任の職員を配置して調査研究機能の強化を図ります。

閲覧室には約三十万冊の図書が開架できます。参考図書や基本図書、専門書の充実はもちろん、重点収集資料として吉備文化資料と交通文化資料を整備しま

す。最近関心が高いビジネス支援関連の資料の充実も図ります。また有料データベースの導入も行います。

(二) レファレンスデータベース

レファレンス事例の集積は図書館にとつて大きな財産になります。ただ、一館だけの事例では数量に限界

がありますので、協同でデータベースを構築するものです。先の図書館横断検索システムとレファレンスデータベース、さらに郷土情報ネットワークを合わせ「デジタル岡山大百科」として発展させていきます。

三 資料保存センター

県立図書館は自館の資料を保存す

るだけでなく、全県的立場に置ける資料保存センターとしての役割を果たしていきます。約二百万冊収蔵可能な書庫を設置しています。自動化書庫も採用し、効率的な保存を目指しています。

四 職員の研修

質の高い図書館サービスを提供するためには職員の研修は欠かせません。県立図書館では、基本的、トピク的な課題を中心にした一般研修と、児童サービス等の専門研修をそれぞれ年三回程度予定しています。さらに館長研修も実施する予定です。

五 図書館未設置町村の支援

県下の図書館設置率は五〇%を超えましたが、まだ三十八町村には図書館がありません。図書館未設置町村には公民館図書室やへき地指定校への配本を行い、図書館サービスの空白地帯が生じないように努めます。

他に、市町村立図書館や公民館図書室に職員が出かけ、運営相談等が行える巡回協力事業も実施したいと考えています。

県立図書館は、県民すべてが利用できることが基本です。市町村立図書館や公民館図書室と連携・協力し、また岡山情報ハイウェイなどを活用し、県立図書館が収集、蓄積した資料・情報を効果的に提供していきたいと考えています。

リニューアルしてこんにちは!

熊山町立図書館 三宅 康栄

平成十六年一月五日午前九時、新しい年を迎え、仕事始めの日に熊山町立図書館は、二度目の産声をあげました。

最初に産声を

あげたのは、平成十三年九月。それまでの公

民館図書室のか

たちのままで、

電算化もされず、

ただ条例設置の

みという少し寂

しい図書館とし

てのスタートで

した。

そして、それ

から二年四ヶ月

約一ヶ月の準備

期間を経て、

夢だった電算シ

ステムを導入。

さらに準備の

ための閉館期間

を利用して館内

レイアウトを大

きく変え、リ

ニューアルオー

プンの日を迎えることができました。

電算システム導入にもなつ資料

のデータベース作成作業については、

岡山県の緊急地域雇用創出基金の補

助金を受けて行いました。

そのデータベース作成について最

も考慮したのが、ひたひたと迫って

きている町村合併の波への対応でし

た。

ちょうど合併の分科会レベルでの

話し合いが進んでいましたので、分

科会の席で他町の図書館の方にも相

談させていただきました。

そして、合併により図書館もネッ

トワークを構築し、図書館資料も相

互利用するという前提のもと、バー

コードの最初の数字を館番号とし、

合併が予想されている他の図書館の

ものとは違うものになりました。

それに併せて、図書館利用者カー

ドのバーコードの最初の数字も館番

号の数字と同じものになりました。

さらに、電算システムの機種につ

いても他町、県等の状況を考慮して

決定しました。

また、閉館期間を利用しての館内

のレイアウト変更では、今までと同

じ場所を、利用者の方にいかに広く

ゆつたり感じていただけるか”をコ

ンセプトに考えていきました。

そのコンセプトに基づき、入って

すぐのスペースを絵本のコーナーに

し、二段の低い書架を配置すること

で空間を作り、館内へ一歩足を踏み

入れた時の印象をゆつたりしたもの

にすることができたようです。

さらに、一般の書架にも流れを

作ったことによりカウンターからの

死角をなくすことができ、利用者の

様子が目に入りやすくなりました。

これにより、本を探されている方等

に対する声かけもスムーズに行える

ようになりました。

利用者の方からも”明るくなった

ね””広く感じるね””本を探しやす

くなったよ”など、嬉しいお言葉を

いただいています。

レイアウトの変更作業は本当に大

変だったのですが、その疲れも吹き

飛び、関係者一同心から喜んでいま

す。

しかし、まだまだ課題は残ってい

ます。

まず一番の課題はデータベースの

公開です。



現在は館内の端末でのみ公開して

いますが、町のホームページを利用

してのデータベースの公開、さらに

ゆくゆくは岡山県の横断検索システ

ムへの加入なども考えています。

また、サービスマンにおいても、時



間的・距離的に図書館まで足が運べ

ない方のため、町内の各地区にある

公会堂へ図書館から出かけていき、

貸出をする等のサービスの必要性を

感じ、実施の方向で計画中です。

他の図書館とくらべると、本当に

カメのような熊山町立図書館の歩み

ですが、一歩ずつ確実に前進してい

き、これからも全ての人々に開かれ

た、学習そして情報の拠点をめざし

頑張っていきたいと考えています。

(みやけやすえ)

ウチの
ディスプレイ 第4回

久米町立図書館

太田 千春

久米町立図書館は狭い図書館で、読書コーナーさえ余裕をもつてとることができず、窓が多く空いている壁面もないのでポスターを掲示する場所がないのが常日頃の悩みです。前回までに登場した図書館のようにディスプレイする空間的余裕がないため、ウチのディスプレイといわれなくても意識してやっているのは本の表紙をみせて飾ること(特に絵本)とテーマ展示くらいかしらという図書館なのに、なぜこのコーナーの執筆依頼がきたのでしょうか、どこか他の図書館とお間違えになったのではないのでしょうかと思いつつも引き受けてしまいました。でも結果的には図書館をいつもと違う視点から考える良い機会となりました。このような機会を与えてくださってありがとうございました。

作ってくださいました。すぐに変えるなんてもったいない素晴らしいと、たんぼの家の人形劇の十八番も「ぐりとぐら」ということもあってそのまま楽しませてもらっています。



この冬ちよつと倉庫をのぞきましたら、以前使ったのであろう雪だるまの飾りがみつかったので、玄関ドアや柱などにさげました。ドアの開閉で揺れるとても可愛い飾りでした。その可愛らしさは、おじさん達は入るのが恥ずかしくなるのではないかしらと心配するほどでしたが大丈夫

のようでした。小物は、幼児コーナーにアンパンマン・ネコバス・プーさんなどのぬいぐるみ等を置き、カウンターには今、ボランティアさん手作りのポンポンで作った人形(?)が置いてあります。これらは貸し出しをするときにちよつとした会話につながったりします。

こんなこともありました。初めて図書館に来た幼児が中に入りたくそうにしていることに、おばあちゃん気が付き、そのカウンターのポンポンウサギを持って出て「中にはこんなものもあるよ。これはあげるね。」と誘うと、その子は図書館の中に入ることができ、読み聞かせの会にも参加することができました。その後来館した時におじいちゃん、図書館でウサギをもらったといって喜んでいたので教えてくれました。それを聞いて、最初は怖がって入れなかつたけれど図書館に対していいイ



メージを持って帰ってもらえたのだとほつとしました。



最初書いたように、本が「借りて！」と訴えてくるように本を展示することには力を入れてい

るのですが、スペースに余裕がないことなどから図書館を飾るにはこれまで重きをおいておらず、ボランティアさんまかせでした。今回これを書くに当り、カメラを通して館内を見わたり、ボランティアさんのディスプレイやポンポンウサギをもらって喜んでくれた少女のことを思い出しながら考える中で、どんなに館内が狭くとも本があればいいというのでなく、ほんのちよつとのやわらかさが、今まで思っていた以上に重要なのだと改めて気付きました。これからはディスプレイにも前向きに取り組む、初めての方にも柔らかく開かれた新鮮な図書館であるよう、気をつけていきたいと思えます。

(おおたちはる)

企画委員会に参加して...

委員長 妹尾真理子

平成十四年から二年間、企画委員会に参加させていただきました。

何か役に立つ意見が言えたかしら?と思いきり起こしています。今、思いう出すと恥ずかしいことなのですがこんなこともありました。昨年の一月下旬の昼過ぎに、事務局から電話がありました。「妹尾さん、もうすぐ会議が始まりますよ。」「えっ、明日でしょう。」「今からですよ。」「こう言われて、電話を持つ手が汗ばんできたのを覚えています。でも、その時正直言って会議のことよりも岡山に行けなくなつたことのほうがショックでした(こんな気持ちでこめんない)。

何回か、この会議に参加していくうちに、県内の市町村の図書館、大学図書館の司書の方と情報交換ができるようになり、いろいろお話を聞くことができました。

この会で提案された意見は、すぐに会報や研修会に反映され、事務局の手際の良さに感心いたしました。

特に、研修会の内容は、私たちの現場ですぐに活用できたり、新しい知識として身に付けたりすることができ、有意義な研修内容だったと思

います。また、読書に関わる講演会では、先進的な活動をしている図書館のお話や県内の市町村の動きが把握できるなど、今後の読書活動の方向性などを学ぶことができました。これからも、図書館員の研鑽の場を提供していただければと思います。

私がこの二年間に思い出に残ることが二つあります。一つは会報がリニューアルされ、大変読みやすくなったことです(老眼が近づきつつある私には大変嬉しかった)。内容も充実されたのではないかと思います。

もう一つは、十四年六月に届いた「岡山県図書館協会創立五十周年記念誌」です。読み終えてみると、協会に携わつた諸先生方の図書館に対する熱い思い、そして、岡山県の図書館設置・普及活動の努力の跡がひしひしと伝わってきました。私の町矢掛町もそうですが、この十年間に多くの図書館ができました。これもひとえに岡山県図書館協会の皆様のご尽力のおかげだと思います。私たちが働く図書館は多くの方によって支えられているのだということに改めて実感いたしました。

今秋、県民の夢と希望と期待がふくらむ県立図書館が動きだします。岡山県の文化の新しい幕開けと言っても過言ではないと思います。県内

の図書館良きアドバイザーとしてお世話になることが多かったにもかかわらず十分に気持ち伝えられませんが今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。最後に岡山県図書館協会の益々のご発展をお祈りいたします。

(せのおまりこ・矢掛町立図書館)



事務局から

三月三十一日に岡山県総合文化センターが閉館し、九月二十五日には岡山県立図書館が開館します。

これにともなつて、岡山県図書館協会事務局も岡山県立図書館内に移転することになります。新しい県立図書館が開館し、新体制で事務局を運営することができるようになるまでの約半年間は、会員の皆様には何かと御迷惑をおかけすることと思ひますが、どうぞ御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、四月一日からの事務局への連絡先は次のとおりですので、お間違のないよう御注意ください。新しい県立図書館で皆様にお会いできることを、事務局員一同楽しみにしております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局連絡先

〒700 - 0823
岡山市丸の内2丁目6番30号
TEL : 086 - 224 - 1286

新しい
住所です



平成十六年三月三十一日
〒七〇〇 〇八一四
岡山市天神町八 五四
岡山県総合文化センター内
岡山県図書館協会
会長 広江寿彦
(〇八六)二二四 一二八六
(内線 二四五)